

SGH企画：関高校・朝日大合同ゼミ

SGH企画：関高校・朝日大合同ゼミ「模擬法廷」と「ワールドカフェ」

日時：平成27年9月30日(水) 10:00～14:30

場所：朝日大学6号館7階模擬法廷・学食

講師：大野 正博 博士(朝日大学法学部教授)

参加者：希望者(8名)

模擬裁判と討論を通じて、主権者としての責任について考えました。

- 7月21日に関高校で、「18歳選挙権」について講義していただいた朝日大学法学部大野正博教授のもとで、主権者となることについて考えました。大野先生のゼミ生を交えて討論することで、さまざまな意見があることを知り、自分の考えを表現することができました。
- 午前中は、模擬法廷講義室において、模擬裁判を行いました。生徒たちが裁判員となり、三匹のこぶたに正当防衛が適応できるかどうか、さまざまな証拠から検討しました。
- 午後は、学食においてワールドカフェスタイルの討論を行いました。カフェのようにリラックスした場で、5人ずつの小グループでメンバーを変えながら話し合いを行います。討論のテーマは、「今の政治について思うこと」「18歳選挙権について」「主権者教育に高校生として望むこと」の3つでした。



模擬法廷では、裁判の流れについて話を聞きました。絹製の法衣や座り心地の良い椅子など実際の裁判所同様の臨場感があり、被告と裁判官の目線が合うよう作られていることなどがよく理解できました。



ワールドカフェの討論は、学食のリラックスした雰囲気の中で行いました。



裁判員は人の一生を左右する決断をしなければなりません。刑法の条文の理解から始まり、提示された証拠に基づいて慎重に討議しました。

<参加した生徒の感想>

- 主権者になるということは、投票をして自分たちの代表を決めるだけでなく、立法・行政・司法の三権すべてにおいて関わること。自分たちの選択はいずれ自分たちに返ってくるものであり、責任も生じてくることを学びました。いつも「自分が当事者」だと考えることが大切だと学びました。

ワールドカフェでは、普通に討論すれば難しく堅い話題でも、気軽な場であれば自分の本音も話しやすく、お互いの話も吸収しやすいと感じました。学校や企業、政治でも取り入れていくべきだと思いました。相手がどんな人であろうと「対等な立場」で本音を語り合うことが、有意義な討論をする方法だということを忘れないようにしたいと思います。

セミナーを終えて、私は主権者となるにあたって、もっと政治をはじめ様々な出来事に関心を持つことが必要だと思いました。政治については、メディアによく取り上げられる国政に目が行きがちですが、自分の住んでいる街や近隣の市町村などの“身近な政治”から関心を深めていけたらと思いました。また、政治や選挙権の話題に興味のある私たちが、同世代の人たちにも影響を与え、関心や興味の輪を広げていけるようアクションを起こしていきたいと思います。

- 実際の法廷の型式とほぼ同じ造りの模擬法廷で裁判についての講義を受け、裁判員の立場に立って有罪か無罪か議論する体験をしました。裁判員の立場で考えるのはとても難しかったけれど、この**裁判員制度が人々の罪に対する意識を変える**ということも知ることができました。

ワールドカフェ型式の話し合いでは、話しやすい環境が用意されていましたが、私はなかなか自分の意見を積極的に出せず後悔しています。しかし、他の人の意見をメモしたりして、とても意味のある場になったと思います。機会があれば、学校などでもできたらおもしろいと感じました。

- **予想以上に裁判というのは難しいものだ**と思いました。裁判員制度が導入されたのは、罪の重さを理解するためであると知り、自分も20歳になったら裁判員として実際にあの場になつてみたいと思いました。罪の重さによる懲役の決め方も知ることができ、いい経験ができました。

ワールドカフェは、気軽に何でも話せるような雰囲気でした。あのような場が増えていけば、政治のことにもっと興味を持つ人が増えると思いました。今回の経験を生かして、自分達から周りの人に政治に関して興味を持ってもらえるようにしていきたいと思いました。

- 模擬裁判では**正解のない問題を考える難しさ**が分かりました。一つの証拠でも、立場によってとらえ方が違うため、簡単にどちらが悪いと決められませんでした。20歳になると誰もが裁判員になる可能性があるのも、もっと知識をつけたいと思いました。裁判員制度は、罪を犯してはいけないと思わせる素晴らしい制度だと思いました。

ワールドカフェでは、人の意見を聞くだけでなく、自分の意見を言うことも大切だと思いました。政治はテレビや新聞、教科書の中の、どこか遠い世界の話のような感覚があります。一方的に話を聞くだけでなく、さまざまな人と**意見をぶつけ合うことで、自分たちに関わる話だと認識できる**のではないかと思います。知識を得るという面でも議論することは大切です。知識のある人と話すことはいい刺激になりました。また、政治の情報を得るために、市長のブログを見ているという話を聞きました。興味を持つのにリアルタイムな情報を得ることは必要です。ブログなどのメディアであれば、自分でも接しやすそうだと思います。

- 私は SGH で 18 歳選挙権について考えようと思い、このゼミに参加させていただきました。模擬裁判では、証拠や証言から無罪か有罪か討議しました。特に証言の真偽は本人しかわからないので、本当かどうか判断することは難しかったです。裁判員となった方々の 9 割がやってよかったですと答え、家族を犯罪者にしてはいけないという思いができたと思いました。また、人に前科をつけるのか、もう一度罪を犯してしまうのかという、**その人のその後の人生について考えている**と知り、どんな人のことも大切に考えているのだなと思い、感動しました。

ワールドカフェ形式のディベートでは、少人数で対等に話すことができ、気軽に意見を言うことができました。私は**政治や選挙に関心を持ってもらうためには、それらの意味、それらによって私たちの生活がどう動かされているのかや、どうなっていくのかを知り、責任を感じ、知識を増やす必要がある**と思いました。そのためには、国という大きなところからではなく、身近な自分たちの地域に関して知ることが大切になるのではないかという意見に賛同しました。18 歳から選挙を行うことで、社会を支えていく人間としての責任を自覚することができると思ったので、もっと政治に興味を持とうと思いました。

- 三匹の子豚裁判では、裁くということが予想以上に難しいと知りました。また、裁判員裁判制度は罪の重さを意識させるために行っているを知って、すごくよく考えられているなと思いました。

ワールドカフェのような対話をもっと増やしていけば、国民はもっと政治に関心をもつんじゃないかと思いました。これからは、**僕たちがきっかけになって、みんなが政治に関心をもてるよ**うになれたらいいなと思いました。

- 模擬法廷での説明は、「その席は～で、ここは～」という話を実際に見ながら聞いたことがとても良かったです。模擬裁判では、**答えがない事を考え、ひとつに絞るのはとても大変**でしたが、その分深く考えられました。正当な判決を出すためにも、裁判官の主観を入れずに法律に沿って考える事が大切だと分かりました。

食堂での議論はとても新鮮でした。選挙権について議論をする中で、**若者が政治を身近に感じて興味を持つことが重要**だと思いました。そのためには、政治について知識を持っていないといけないし、政治家も今時の若者は～と決めつけずに、今回のような砕けた雰囲気の中で立場を気にせずに議論できるといいと思いました。

今回のゼミを通して感じたことは、受身で相手の話を聞いているだけでなく自分から発信していかないと何も変わっていかないということです。今の政治に対する不満をデモ行進などで政治家に伝えるという方法も実際に行われているので、これからの社会を作っていく私たちの世代がもっとアクションを起こさないといけないと感じました。

とりあえず私は、選挙をする機会があれば必ず投票に行つて自分の意志表示をしたいです。